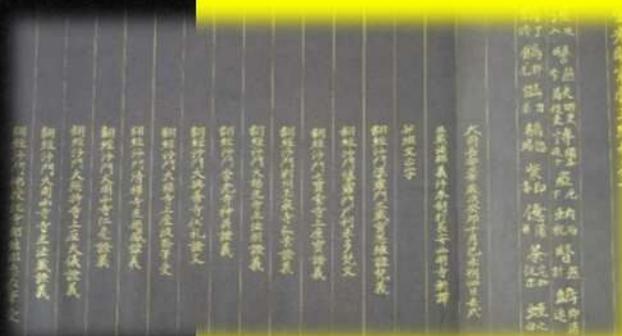


金泥書復元

福島久幸の書跡・典籍の追求



切り絵：八木勝行作



こんこうみょうさいしやうおうきよう
金光明最勝王經 第一卷（復元）



ぼたにかきよう
菩多尼訶經（復元）



牧野富太郎、上村登と幼少期の福島久幸



能「清経」を舞う福島氏



福島氏の金泥書作成風景
※金の粉末を膠の溶液で練り紫紙や紺紙などの紙に筆で書いたもの。

～金光明最勝王經復元の追求～

令和6年11月29日(金)～12月20日(金)

静岡市埋蔵文化財センター（清水区横砂東町33番地2）

～人生を彩る植物学と能楽～

令和7年1月7日(火)～1月23日(木)

静岡市立登呂博物館（駿河区登呂五丁目10番5号）

※会場により展示物は異なります。

静岡市内文化財情報
Instagramはじめました
フォローお願いします！



SHIZUOKACITY_BUNKAZAI

【企画・問い合わせ】静岡市文化財課 〒420-8602 葵区追手町5番1号
電話：054-221-1066 / FAX：054-221-1451

金泥書の技法で、金光明最勝王経の復元を成し遂げた福島久幸氏の没後10年にあたる令和6年度、金泥書技法の復元に向けた彼の追求を2つの会場で振り返る。

【福島久幸とは】

福島氏(1922~2014)は、清水市(現静岡市清水区)で、歯科医師の傍ら、金泥書技法の研究を重ねて、金光明最勝王経等、典籍の復元に成功した。

【代表的な展示品の解説】

静岡市埋蔵文化財センター 会場

金光明最勝王経(復元) (こんこうみょうさいしやうおうきやう) 静岡市蔵

この経を敬い読誦すれば、国が諸仏によって護られることを説く、護国經典の代表で、奈良時代から重んじられてきた。聖武天皇の時代に各国の国分寺の塔に安置された。

金泥書法の基礎的研究 1巻~3巻 静岡市蔵

金泥書技法の追求の過程を福島氏が記したもの。金泥書に関する研究書が皆無に等しい状況の中で、氏がどのようにして金光明最勝王経の復元に至ったかが分かる研究書

片山廃寺出土遺物の瓦 静岡市蔵

駿河国国分寺跡である片山廃寺跡で出土した瓦。平城宮で出土した瓦と同じ模様。

静岡市立登呂博物館 会場

植学啓原図 (しよくがくけいげんず) 個人蔵

体系的な西洋植物学の紹介書。蘭学者の宇田川榕菴(1798~1846)が文政5年(1822)に作成した。

菩多尼訶経 (ぼたにかきやう) 静岡市蔵 個人蔵

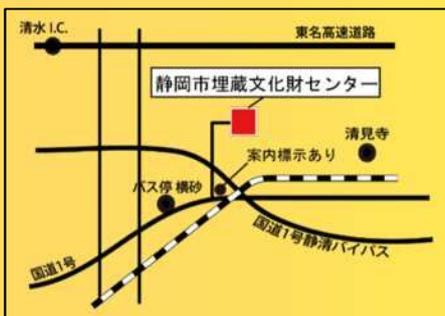
植物学を日本人に分かりやすく伝えるために經典の形にしたもの。宇田川榕菴が文政5年(1822)に作成した。宇田川の研究は植物学者である牧野富太郎(1862~1957)にも影響を与えた。

風姿花伝 (ふうしかでん) 静岡市蔵

花鏡 (かきやう) 静岡市蔵

福島氏は父の影響で謡の稽古に励んだ期間があった。60歳を境に舞台に立つことはなくなったが、幼少期から伝統芸能の世界で身につけた人々の芸の力に圧倒され、特別な思いがある世阿弥の伝書を金泥書で復元した。

【会場へのアクセス】



埋蔵文化財センター 開館情報

開館時間:午前9時~午後4時30分

休館日:土曜、第2・第4日曜、祝日 入場無料

〈バス〉JR清水駅三保山の手線但沼車庫行きに乗車、
「横砂」バス停で下車し、徒歩10分

〈車〉東名高速道路「清水インター」から国道1号線バイパスを東進し、「横砂北」交差点を右折、次の信号を左折後、埋蔵文化財センター看板を右折



登呂博物館 開館情報

開館時間:午前9時~午後4時30分

休館日:月曜、祝日・振替休日の翌日 入場無料

〈バス〉JR静岡駅南口22番乗り場から石田街道線「登呂遺跡」行き
終点下車

〈車〉東名高速道路「静岡インター」から10分
遺跡南側に有料駐車場50台有り(普通車一回400円)